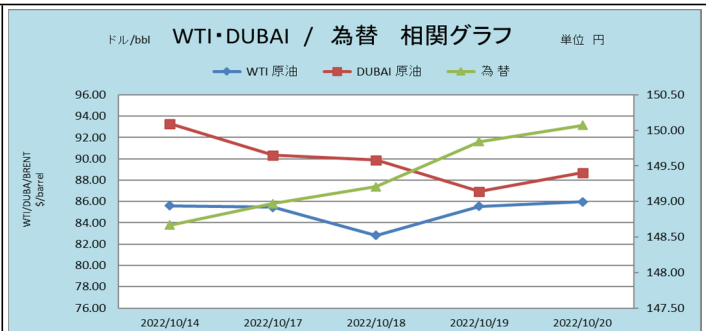
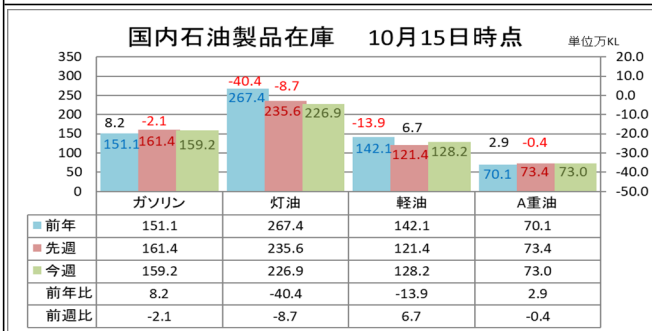


【概況】<大幅利上げに伴う景気後退懸念>

- 14日、世界各国中銀の大幅な利上げに伴う景気減速(リセッション)懸念が強まる中、エネルギー需要の先行きにも警戒感が広がり、原油が売られました。朝方発表された10月の米ミシガン大学消費者景況感指数(暫定値)が市場予想を上回りましたが、米連邦準備制度理事会(FRB)による大幅な利上げ継続を後押しする内容と見なされ相場は85.61ドルへ反落しました。
- 17日、高止まりするインフレを背景にエネルギー需要の先行きに警戒感が広がる中、原油の売りが優勢となりました。世界各国中銀の大幅な利上げ継続に伴う景気先行き懸念も引き続き原油の重しとなり相場は85.46ドルへ続落しました。
- 18日、中国国家统计局は17日、18日に予定していた7~9月期の国内総生産(GDP)の公表を延期すると発表されました。14日に予定していた9月の貿易統計の公表も先送りされており、景気悪化を示す統計内容の公表を避けた可能性があります。世界最大の石油輸入国である中国の需要減退への懸念が強まり、売りが優勢となりました。一部メディアは、米政府がガソリン価格の高騰を抑えるため、戦略石油備蓄(SPR)から1000万~1500万バレルの追加放出を計画していると報道。需給逼迫懸念の緩和につながったことも相場の下押し要因となり相場は82.82ドルへ続落しました。
- 19日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比170万バレル減と、増加を見込んでいた予想に反して取り崩しとなりました。前日の夕方に米石油協会(API)が発表した米国内原油在庫も取り崩しが見られたことで、需給の引き締め観測が広がり、原油が買い進まれ相場は4営業ぶりに反発し85.55ドルへ値上げとなりました。
- 20日、外国為替市場では対ユーロでドル安が先行しました。ドル建てで取引される原油などの商品の割安感につながり原油が買われ、さらに、中国で新型コロナウイルス関連の制限措置が緩和される可能性があるとの報道を受けて同国景気の先行きに期待が広がり、原油が買われ相場は85.98ドルへ続伸しました。

10月21日 | 16:00現在 | WTI原油 | 84.54ドル | 為替 1ドル | 151.26円



	次回元売変動予測	
	10/27~	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.1
灯油	➡	+0.1
軽油	➡	+0.1
A重油	➡	+0.1
L S A	➡	+0.1

※原油コスト「-1.5円」
 ※激変緩和補助金「-36.2円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<元売月間玉と市況連動玉を持つ業者の売り込みがさらに強まる>

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「+1.0円」、補助金は、「-37.8円」、都合「-0.5円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの17日時点の小売価格平均は169.1円となっております。今週も元売月間玉と市況連動玉を持つ業者が市況をリードしています。

《10月22日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「-1.5円」の改定予測で、激変緩和補助金は「-36.2円」の見込みで、都合「0.1円」の値上げ改定の予測となっております。今月のコストもあらかじめ見えてきたため20日の価格改定以降、元売月間玉と市況連動玉を持つ業者の売り込みがさらに強まっています。月末前までに枠を消化しようと各社売り込みを強めているため毎日に市況は下落しています。なぜなら11月3日からの改定でサウジ調整金▲3.6円が加味されるため、月末近くは逆仮需が発生しオーダーが先送りになる事が予想されるからです。月末前までに枠を消化できない場合は、枠を残している業者同士で、仕切り価格を下回っての熾烈な販売合戦に突入する可能性があります。

【次世代エネルギー】<日立物流脱炭素車両(EV・FCV)の導入を加速>

日立物流は国内約1000台の営業車両(乗用車)を2030年度までに電気自動車(EV)と燃料電池車(FCV)に原則入れ替えます。併せて全世界で約6000台保有するフォークリフトもエンジンや鉛電池駆動から、リチウムイオン電池(LiB)駆動へと順次交換予定で、中大型のEVやFCVトラックの導入も進めて行かれるとの事です。脱炭素車両の導入を加速し、30年度のグループ全体の二酸化炭素(CO2)排出量を13年度比で半減する目標達成に貢献されます。日立物流は現在、約1000台の営業車両を保有されていますが、EVやFCVの営業車両は10台強の導入にとどまっております。30年度までに入れ替えを進めていかれるとの事です。ただ、EVやFCVのないサイズの車両もあることから、それらの車両は当面、利用を継続されます。また、フォークリフトを全世界で約6000台保有しています。エンジン駆動のフォークリフトは急速充電で長時間稼働できるLiB駆動の電動式に交換を進める方針です。一部で採用している鉛電池駆動の電動フォークリフトについても、さらにエネルギー効率の高いLiB駆動へと安全性や経済性を検証しながら順次切り替えを始めるとの事です。

日立物流は21年度に見直したグループの中長期の環境目標で、30年度のCO2排出量を13年度比で半減の6万5000トン、50年度までに実質ゼロ(ネットゼロ)にする目標を掲げています。

[出典]

① <https://newsswitch.jp/p/33809>